

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器官の系統的な分類を理解する。 ・ 人体の外形と構成を理解する。 ・ 器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語 1. 骨格系（1）：構造、機能	11	5. 神経系（2）：末梢神経系
2	1. 骨格系（2）：体幹骨（胸郭、呼吸） 上肢骨（鎖骨と頭蓋骨の関係等）	12	6. 呼吸器系：上気道・下気道～肺
3	1. 骨格系（3）：下肢骨（寛骨と腸骨 恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差）	13	7. 感覚（1）：一般的性質、皮膚、粘膜 眼、耳
4	2. 筋と運動（1）：構造と機能 筋の形状と分類、頭部、頸部、背部	14	8. 泌尿器系 9. 生殖器系
5	2. 筋と運動（2）：胸部、腹部、上肢、下肢	15	10. 内分泌系
6	3. 消化・吸収（1）：消化管の構造 口腔～食道、嚥下	16	
7	3. 消化・吸収（2）：胃～大腸、肛門 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官	17	
8	4. 循環（1）：血管系の概要（構造、 血球、組織）・心臓・動脈	18	
9	4. 循環(2)：静脈系・リンパ系 胎児の循環	19	
10	5. 神経系（1）：概要・構成 中枢神経系	20	

<p>講義方法</p> <p>教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>プロジェクター（P C 連動）、配布プリント、骨格標本模型</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。</p> <p>授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>試験評価 80% 授業態度 20%</p>
<p>教科書</p> <p>最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学</p>
<p>参考書</p> <p>プロメテウス解剖学アトラス （医学書院）</p> <p>人体の構造と機能（全10巻縮刷版）（日本医事新報社）</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	組織・発生学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務		
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってできた組織の構造と機能について学び、説明できる。				
	さらに人体と口腔の発生過程についても学び、それを説明できる。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	細胞：細胞の構造、細胞の一生	6	発生①染色体と減数分裂,精子と卵子, 受精と着床
2	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織	7	発生②胚葉の形成、胎児の成長と発育
3	組織②骨組織	8	顔面と口腔の発生① ※「口腔組織学」の内容
4	組織③筋組織	9	
5	組織④神経組織	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。
授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価 80% 授業態度 20%

教科書

最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能0 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 井上貴央監訳（西村書店）

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯の解剖学（スケッチ含む）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、（三上眞）	実務経験	医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務		
講義目標	一般目標				
	永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標				
	①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。 ④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯の概論①	11	乳歯①（乳前歯）
2	歯の概論②	12	乳歯②（乳臼歯） 歯の解列と咬合関係、異常歯
3	永久歯①（特徴、前歯①）	13	歯型彫刻③（上顎第一大臼歯①） (三上眞)
4	永久歯②（前歯②）	14	歯型彫刻④（上顎第一大臼歯②） (三上眞)
5	永久歯③（小白歯①）	15	歯型彫刻⑤（上顎第一大臼歯③） (三上眞)
6	歯型彫刻①（上顎中切歯①） (三上眞)	16	
7	歯型彫刻②（上顎中切歯②） (三上眞)	17	
8	永久歯④（小白歯②）	18	
9	永久歯⑤（大白歯①）	19	
10	永久歯⑥（大白歯②）	20	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。

石膏棒を削り、上顎中切歯および第一大臼歯を作成する。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、歯牙模型

歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。

履修上の注意事項

歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。

歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

成績評価方法

試験点数を70%。平常点10%。

歯型彫刻実習の配点は、20%とする。（出席点と製作物の提出点を基礎点とする）

教科書

最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔組織学」

参考書

最新歯型彫刻 理論と実際 第2版 （医歯薬出版）

基礎から学ぶ 歯の解剖 （医歯薬出版）

予習復習のアドバイス

覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	口腔解剖学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
	到達目標				
	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	頭蓋を構成する骨② 頭頸部の筋と作用①	6	口腔付近に分布する神経系① 脳神経（1）
2	頭頸部の筋と作用②	7	口腔付近に分布する神経系② 脳神経（2）
3	顎関節 口腔付近に分布する脈管系① 動脈系	8	口腔付近に分布する神経系③ 自律神経系
4	口腔付近に分布する脈管系② 動脈系	9	
5	口腔付近に分布する脈管系③ 静脈系・リンパ系	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。
授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

参考書

プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部（医学書院）

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	口腔組織学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・ 歯と歯周組織の構造と機能を理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	顔面と口腔の発生②	6	口腔の構成①（※口腔解剖学） 口唇・頬・歯肉・舌
2	歯と歯周組織の発生	7	口腔の構成② 口蓋・咽頭（※口腔解剖学）
3	歯及び歯周組織の構造と機能① エナメル質	8	頭蓋を構成する骨① （※口腔解剖学）
4	歯及び歯周組織の構造と機能② 象牙質・セメント質	9	
5	歯及び歯周組織の構造と機能③ 歯槽骨・歯肉・歯根膜	10	

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。

授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科衛生士概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	市川明子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士としての業務や役割について学び、知識、技術を習得する態度および心構えについて理解すること				
	到達目標				
	歯科衛生士という職業を理解し医療人としての心構えについて理解できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科医療とは・歯科衛生士とは 健康の概念	11	予防の概念と保健指導の理論
2	1・2年製相互実習	12	歯科衛生士概論まとめ
3	1・2年製相互実習	13	自分になりたい歯科衛生士について考えてみよう！現況等
4	歯科衛生士の業務と歴史	14	臨地実習前指導 実習日誌の書き方等
5	歯科衛生に関する法律と業務	15	企業の歯科衛生士
6	歯科診療の流れ	16	
7	実習室の使い方 (髪型・実習着・ファントム・等)	17	
8	歯科診療における情報収集	18	
9	歯科医療における倫理	19	
10	医療事故の防止と対策	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示板を注意して下さい。

履修上の注意事項

配布したプリントを使い復習しましょう。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する

教科書

歯科衛生学総論・歯科臨床概論

予習復習のアドバイス

授業中配布したプリントを使いましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講 師 名	市川明子 千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	市川：歯科医院に歯科衛生士として6年勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講 義 目 標	一般目標				
	歯科予防処置についての専門的な知識と態度を習得する				
	到達目標				
	歯科予防処置について（う蝕と歯周病。フッ化物の応用、シーラントなど）概要を理解する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科予防処置法とは	11	フッ化物の応用 2 1から10復習
2	口腔の基礎知識 1	12	テスト
3	口腔の基礎知識 2	13	テスト解説
4	う蝕と歯周病の基礎知識 1	14	歯周治療の基礎知識と技術① 資材の配布と使用目的、管理について
5	う蝕と歯周病の基礎知識 2	15	歯周治療の基礎知識と技術② Sc等使用器具の構造と把持法（机上）
6	う蝕と歯周病の基礎知識 3	16	
7	分析のためのデータ	17	
8	分析のためのデータ	18	
9	分析のためのデータ	19	
10	フッ化物の応用 1	20	

講義方法

教科書を中心に講義を進める。
過去の歯科衛生士国家試験の問題にもふれ国家試験対策を行う。

講義で使用する機器・教材

教科書、パワーポイント、プリント

成績評価方法

定期試験 出席状況

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習として事前に教科書の対応項目に目を通し、復習としてその日に配布したプリントを整理し教科書をよむことが望ましい。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅰ－Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	12/30
		単位時間数	24/60	単位数	2
講師名	市川明子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔の健康維持、増進に関して継続的なケアを理解し、口腔疾患や予防方法についての目的、方法、手技を学ぶ				
	到達目標				
	模型実習および相互実習を通して歯科予防処置法の手技を基礎から応用へと積み上げ実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	フッ化物について フッ素塗布法 1	11	テスト シーラント
2	フッ化物について フッ素塗布法 2	12	テスト解説 シーラント
3	フッ化物について フッ素塗布法 3	13	
4	フッ化物について 演習問題解説	14	
5	う蝕活動試験 1	15	
6	歯う蝕活動試験 2	16	
7	う蝕活動試験 3	17	
8	シーラント	18	
9	シーラント	19	
10	シーラント テスト前総復習	20	

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション

相互実習

顎模型実習

講義で使用する機器・教材

教科書、模型、マネキン、プリント、パワーポイント、実習帳

履修上の注意事項

実習中、偶発事故に遭遇したらずみ担当講師に連絡すること

成績評価方法

授業への出席、レポートおよび実習に関する試験

実技試験は教員2名で各50点合計100点で採点

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習として事前に教科書に目を通し目的をもって実習に臨み、その日の実習内容を復習する事により理解を深めて行くことが望ましい

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅰ－Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	18/30
		単位時間数	36/60	単位数	2
講師名	千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	口腔の健康維持、増進に関して継続的なケアを理解し、口腔疾患や予防方法についての目的、方法、手技を学ぶ				
	到達目標				
	模型実習および相互実習を通して歯科予防処置法の手技を基礎から応用へと積み上げ実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
13	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ①	25	再試験又は自己トレーニング
14	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ①	26	相互実習基本技術 オリエンテーション
15	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ②	27	シャープニング（鎌形）の基礎実習①
16	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ②	28	シャープニング（鎌形）の基礎実習①
17	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ③	29	口腔病変の観察
18	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ③	30	相互実習 オリエンテーション
19	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ④	31	歯周組織検査の臨床 使用器具・機材の紹介
20	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ④	32	歯周きほん治療の臨床 使用器具・機材の紹介
21	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ⑤	33	
22	スケーリングの基礎技法(マネキン実習) ⑤	34	
23	Sc実技試験	35	
24	Sc実技試験	36	

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション

相互実習

顎模型実習

講義で使用する機器・教材

教科書、模型、マネキン、プリント、パワーポイント、実習帳

履修上の注意事項

実習中、偶発事故に遭遇したらずみ担当講師に連絡すること

成績評価方法

授業への出席、レポートおよび実習に関する試験

実技試験は教員2名で各50点合計100点で採点

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習として事前に教科書に目を通し目的をもって実習に臨み、その日の実習内容を復習する事により理解を深めて行くことが望ましい

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	3
講師名	市川明子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	健康と予防の概念を理解し、歯と口腔の健康を維持し増進するために基本となる理論的思考法を学び、知識を習得する。				
	到達目標				
	歯科保健指導の定義と考え方、法律を理解し説明できる。人のライフステージとその区分に応じた全身状態と口腔の健康について理解し説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	定義と考え方 法的な位置づけ	16	妊産婦期の特徴・保健指導 乳児期の特徴・保健指導
2	健康の概念 予防の概念	17	乳児期の特徴・保健指導 幼児期の特徴・保健指導
3	口腔の基礎知識	18	幼児期の特徴・保健指導 学齢期の特徴・保健指導
4	う蝕と歯周病の基礎知識	19	学齢期の特徴・保健指導 青年期の特徴・保健指導
5	行動変容とそのステップ	20	青年期の特徴・保健指導 成人期の特徴・保健指導
6	食生活指導の基礎 1～6 まとめ	21	成人期の特徴・保健指導 老年期の特徴・保健指導
7	プラークと歯石について 1～6 まとめ小テスト	22	老年期の特徴・保健指導 要介護者の特徴・保健指導
8	口腔清掃補助腰部	23	歯科保健指導Ⅰ 通年まとめ
9	口腔清掃補助用具	24	
10	口腔清掃補助用具	25	
11	情報収集・情報処理 主訴・現病歴・既往歴・医療面接	26	
12	情報収集・情報処理 歯式・基本検査項目	27	
13	分析のためのデータ	28	
14	分析のためのデータ 7～14のまとめ	29	
15	7～14のまとめ小テスト 妊産婦期の特徴・歯科保健指導	30	

講義方法

プリント・スライド・歯科衛生士教本

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示板を見ましょう。

成績評価方法

出席状況、授業態度、提出物、定期試験で総合的に判断します。

前期試験は第1回から第15回、後期試験は第16回から第30回までを範囲とする。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

配布したプリントを使用して復習をしましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導 II	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	市川明子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導の基礎となる知識・技術を習得し理論や知識を理解する				
	到達目標				
	歯科保健指導における口腔清掃指導法・情報収集・分析・立案について説明・実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	口腔清掃指導法について 講義	11	口腔観察 演習 3 PCR・指導内容考察
2	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 1	12	口腔観察 演習 4 PCR・指導内容考察
3	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 2	13	口腔観察 演習 4 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
4	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 3	14	口腔観察 演習 5 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
5	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 4	15	自己の口腔管理・口腔観察と記録 情報のアセスメント・
6	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 5	16	解決策プランニング 自己の口腔管理計画発表
7	医療面接演習 演習 1	17	
8	医療面接演習 演習 2	18	
9	口腔観察 演習 1	19	
10	口腔観察 演習 2	20	

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

口頭または掲示板でお知らせします。

履修上の注意事項

- 1 教科書等忘れ物のないように
- 2 演習時、身だしなみを整えてから入室しましょう。
(入室時服装・爪のチェックがあります)
- 3 忘れ物1つにつき－1点

成績評価方法

筆記試験、実習テスト、出席状況、忘れ物を総合して評価します。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科診療補助Ⅰ	講義曜日	木曜日	講義回数	20/30
		単位時間数	40/60	単位数	4
講 師 名	笠原江利子、加藤美智子 外部講師（歯科医師、歯科衛生士）	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に 歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講 義 目 標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び身につける。歯科材料、機器の種類、目的、用途や特性について理解する。。				
	到達目標				
歯科診療補助及び歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習熟し、臨床の場に対応できる能力を修得する。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科診療の概念 心得、身だしなみ	11	石膏の種類と特性 講義と実習
2	歯科材料・器材、機械の種類と特性 (到達目標)	12	石膏 実習
3	歯科器材、機械（GC） ユニット、X-P;滅菌	13	アルジネート、寒天印象材の取り扱い 講義と実習
4	滅菌済消毒の定義、手指消毒、グローブ、 マスク、エプロンの着脱	14	アルジネート、寒天印象 実習 模型上
5	歯科診療における 患者対応共同動作の基本	15	成形修復材の種類と用途 講義と実習
6	共同動作（患者誘導～ライティング～フォーハンド）	16	成形修復材 講義と実習
7	歯科材料の基礎Ⅰ～Ⅱ章 講義 合着材、接着材	17	仮封材の種類と用途 講義と実習
8	合着材、接着材の取り扱い 実習	18	暫間修復材と仮着材の種類と用途 講義と実習
9	印象材の種類と分類 講義 アルジネート、合成ゴム質	19	ワックスの種類と用途 講義と実習
10	シリコン印象 実習 模型上	20	その他の材料、義歯、麻酔、歯周外科 講義内容

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないよう意欲的に臨むこと。
実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみで総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本歯科診療補助

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科診療補助Ⅰ	講義曜日	木曜日	講義回数	10/30
		単位時間数	20/60	単位数	4
講師名	笠原江利子、加藤美智子 外部講師（歯科医師、歯科衛生士）	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に 歯科医師として17年間勤務 加藤：歯科医院に歯科衛生士として15年勤 務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び身につける。歯科材料、機器の種類、目的、用途や特性について理解する。。				
	到達目標				
歯科診療補助及び歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習熟し、臨床の場に対応できる能力を修得する。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	共同動作、バキュームマネキン実習	11	
2	相互実習容量 実習	12	
3	バキュームテクニック口腔内洗浄 実習	13	
4	バキュームテクニック口腔内洗浄 実習	14	
5	バキュームテクニック口腔内洗浄 実習	15	
6	バキュームテクニック口腔内洗浄 実習	16	
7	小児歯科総論 (福永)	17	
8	ラバーダム (福永)	18	
9	ラバーダム (福永)	19	
10	ラバーダム (福永)	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないよう意欲的に臨むこと。
実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみで総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本歯科診療補助

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16/60
		単位時間数	30/120	単位数	4
講師名	笠原江利子、千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に 歯科医師として17年間勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士の業務内容を理解すること。歯科衛生士法のもとにおいて歯科予防処置を行う。				
	到達目標				
	歯科予防処置の基礎知識を理解し、手技や技術を顎模型実習や相互実習で習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	SRPの基礎技術① Gキュレット基本操作（石膏棒）	11	シャープニング
2	SRPの基礎技術① Gキュレット基本操作（石膏棒）	12	下顎のSRP基礎復習
3	SRPの基礎技術② Gキュレット基本操作（石膏棒）	13	SRP基礎技法④（マネキン実習） #13～#23（唇側・口蓋側） ※（歯石・歯肉なし）
4	SRPの基礎技術② Gキュレット基本操作（0度挿入）	14	SRP基礎技法④（マネキン実習） #13～#23（唇側・口蓋側）
5	SRPの基礎技法①（マネキン実習） #43～#33（唇側・舌側）	15	SRP基礎技法⑤（マネキン実習） #24～#27（口蓋・頬側） ※（歯石・歯肉なし）
6	SRPの基礎技法①（マネキン実習） #43～#33（唇側・舌側） ※（歯石・歯肉なし）	16	SRP基礎技法⑤（マネキン実習） #24～#27（口蓋・頬側）
7	SRPの基礎技法②（マネキン実習） #44～#47（頬側、舌側）	17	
8	SRPの基礎技法②（マネキン実習） #44～#47（頬側、舌側） ※（歯石・歯肉なし）	18	
9	SRPの基礎技法③（マネキン実習） #34～#37（頬側、舌側）	19	
10	SRPの基礎技法②（マネキン実習） #34～#37（頬側、舌側） ※（歯石・歯肉なし）	20	

講義方法

- ①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、人工歯石一式

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験、出席状況、学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論・最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレイジー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16/60
		単位時間数	30/120	単位数	4
講師名	市川明子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	SRP基礎技法⑥（マネキン実習） #14～#17（口蓋・頬側）※実技試験について	11	SRP基礎技法振り返り
2	SRP基礎技法⑥（マネキン実習） #14～#17（口蓋・頬側）※実技試験について	12	PTC・歯面研磨・講義
3	シャープニング 相互実習 6点法	13	歯面研磨（マネキン）
4	上顎SRP復習	14	歯面研磨（マネキン）
5	総合自由練習	15	相互実習 オリエンテーション
6	試験オリエンテーション	16	相互実習 オリエンテーション シャープニング 等器材確認
7	実技試験	17	
8	実技試験	18	
9	再試験	19	
10	再試験	20	

講義方法

①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。

講義で使用する機器・教材

P C、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、人工歯石一式

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験、出席状況、学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレージー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16/60
		単位時間数	30/120	単位数	4
講師名	笠原江利子、千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
①口腔内の状況を把握し、情報を収集し、患者さんに口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる（プロービング、BOP、動揺度、根分岐部病変等） ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要な器材を選択し操作できる。（シクルスケーラー、グレーシーキュレット、超音波スケーラー、エアースケーラー歯面研磨、PMTC等） ④シャープニングを実施できる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	S R P 基礎相互実習① 歯周組織検査	11	S R P 基礎相互実習④ # 34～37
2	S R P 基礎相互実習① 歯周組織検査	12	S R P 基礎相互実習④ # 34～37
3	情報の収集・アセスメントの重要性・講義	13	超音波・エアースケーラー・講義
4	プロブレムリスト作成・指導計画	14	超音波・エアースケーラー・講義(マネキン)
5	S R P 基礎相互実習② # 43～33	15	S R P 基礎相互実習⑤ # 13～23 * 超音波 S C 等の使用
6	S R P 基礎相互実習② # 43～33	16	S R P 基礎相互実習⑤ # 13～23
7	S R P 基礎相互実習② # 43～33	17	
8	S R P 基礎相互実習③ # 44～47	18	
9	S R P 基礎相互実習③ # 44～47	19	
10	S R P 基礎相互実習④ # 34～37	20	

講義方法

①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、超音波スケーラー、エアースケーラー、市面研磨器材、PMTC器材、シャープニング器材

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験、出席状況、実習での器具、器材操作方法、学習態度 ※ミニテストは必要に応じて実施

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本歯周疾患・歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレイジー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16/60
		単位時間数	30/120	単位数	4
講師名	笠原江利子、千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	笠原：医療機関（大学病院、一般歯科）に歯科医師として17年勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標				
	①口腔内の状況を把握し、情報を収集し、患者さんに口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる（プロービング、BOP、動揺度、根分岐部病変等） ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要な器材を選択し操作できる。（シクルスケーラー、グレーシーキュレット、超音波スケーラー、エアースケーラー歯面研磨、PMTC等） ④シャープニングを実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	SRP基礎相互実習⑥ # 24~27* 超音波SC等の使用	11	試験（口頭試問） * 必要に応じてミニテスト
2	SRP基礎相互実習⑥ # 24~27* 口頭試問の出題を発表	12	試験（口頭試問） * 必要に応じてミニテスト
3	SRP基礎相互実習⑦ # 14~17* 超音波SC等の使用	13	再試験 ※再試者以外はマネキンで自己トレーニング
4	SRP基礎相互実習⑦ # 14~17	14	再試験 ※再試者以外はマネキンで自己トレーニング
5	SRP基礎相互実習⑦ # 14~17	15	SRP後の評価 振り返り基礎実習まとめ ※講義
6	SRP基礎相互実習⑧ 歯周組織検査	16	臨床での歯周治療 ※講義
7	SRP基礎相互実習⑧ 歯周組織検査	17	
8	SRP基礎相互実習⑧ 歯周組織検査	18	
9	SRP後の評価 振り返り ※講義	19	
10	SRP後の評価 振り返り ※講義 口頭試問試験 オリエンテーション	20	

講義方法

①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。②演習・実習は：机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種（M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エキスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、超音波スケーラー、エアースケーラー、市面研磨器材、PMTC器材、シャープニング器材

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

成績評価方法

実技試験、出席状況、実習での器具、器材操作方法、学習態度 ※ミニテストは必要に応じて実施

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本歯周疾患・歯周治療

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレーザー型キュレットの構造と特性をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科 目 名	歯科保健指導Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	市川明子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	健康と予防の概念を理解し、歯と口腔の健康を維持し増進するために基本となる思考法を学び、知識を習得する。				
	到達目標				
	ライフステージ別・個人・集団など各対象者別に口腔衛生指導ができる。地域の歯科保健活動における集団指導の方法を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学校保健① オンライン授業	11	幼稚園での歯科保健指導 リハーサル
2	地域保健① オンライン授業	12	幼稚園での歯科保健指導 打ち合わせ・リハーサル
3	臨地実習準備 活動班分け・活動内容打合せ	13	学校保健② 地域保健②
4	臨地実習準備	14	成人保健 高齢者歯科
5	臨地実習準備	15	健康にかかわる地域の役割分担
6	臨地実習準備	16	まとめ
7	臨地実習準備	17	
8	臨地実習準備	18	
9	幼稚園での歯科保健指導 リハーサル	19	
10	幼稚園での歯科保健指導 打合せ・リハーサル	20	

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

媒体作製の準備物はその都度連絡します。

成績評価方法

出席・試験・受講態度から総合的に判断します。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論・保健生態学

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	栄養学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	市川明子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として6年勤務		
講義目標	一般目標				
	人の一生におけるライフステージ別の特性を把握し適切な栄養管理を理解する				
	到達目標				
	歯科衛生士として、健康作りにおける食生活改善の指導ができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	栄養学とは	6	障がい者・要介護者の食事支援 ①
2	食生活の把握	7	障がい者・要介護者の食事支援 ②
3	ライフステージと食育 ①	8	栄養学のまとめ
4	ライフステージと食育 ②	9	
5	食生活と生活習慣病	10	

講義方法

教科書・プリント・スライド

講義で使用する機器・教材

掲示板で連絡します。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価します。

教科書

人体の構造と機能2 栄養と代謝

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	32/60
		単位時間数	60/120	単位数	4
講師名	加藤美智子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助行為の基本から応用へと臨床現場で十分対応できるように技術を習得すること。				
	到達目標				
	歯科材料の選択や正しい取り扱いができる。共同作業の基本から応用へと対応できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	合着材の取り扱い 実習と講義	11	印象材の取り扱い 講義と実習
2	合着材の取り扱い 実習と講義	12	印象材の取り扱い 講義と実習
3	仮着材の取り扱い 実習と講義	13	連合印象採得法 講義と実習 シリコン印象
4	石膏の取り扱い 実習と講義	14	連合印象採得法 講義と実習 寒天印象材、アルジネート印象材
5	石膏の取り扱い 実習と講義	15	印象採得と石膏注入
6	仮封材の扱い 実習と講義	16	印象採得と石膏注入
7	印象材の取り扱い 実習と講義 アルジネート印象材	17	印象採得と石膏注入
8	印象材の取り扱い アルジネート印象材	18	印象採得と石膏注入
9	印象材の取り扱い 実習と講義 アルジネート印象材	19	症例別器具、器材の取り扱い 口腔外科
10	印象材の取り扱い 実習と講義 アルジネート印象材	20	症例別器具、器材の取り扱い 口腔外科

回数	講義内容	回数	講義内容
21	症例別器具、器材の取り扱い 歯周外科	31	症例別器材の準備 セミナー 相互実習
22	症例別器具、器材の取り扱い 歯冠修復	32	診療補助まとめ
23	症例別器具、器材の取り扱い 審美歯科	33	
24	症例別器具、器材の取り扱い 審美歯科	34	
25	症例別器具、器材の取り扱い 矯正歯科	35	
26	口腔内写真撮影法	36	
27	口腔内写真撮影法 セミナー 相互実習	37	
28	口腔内写真撮影法 セミナー 相互実習	38	
29	口腔内写真撮影法 セミナー 相互実習	39	
30	口腔内写真撮影法 セミナー 相互実習	40	

講義方法 教科書・スライド・プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。
履修上の注意事項 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつきー1点となります。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する
教科書 最新歯科衛生士教本歯科診療補助
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	32/60
		単位時間数	60/120	単位数	4
講師名	加藤美智子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助行為に関する知識と基本的技術を習得し、臨床現場で十分対応できるように、治療内容に応じた歯科診療の補助に対応できる応用力を身につける。				
	到達目標				
	歯科診療補助行為に関する知識と基本的技術を習得し、臨床現場で十分対応できるように、治療内容に応じた歯科診療の補助に対応できる応用力を身につける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	共同動作の基本 フォーハンドテクニック	11	アルジネート印象採得 全顎 マネキン実習
2	バキュームテクニック ライティング	12	印象採得、石膏注入 実習要領
3	共同動作、口腔診査、PMTC 実習要領	13	スタディモデル印象採得、石膏注入 相互実習
4	共同動作（患者誘導～ライティング～ フォーハンドテクニック、口腔診査相互）	14	スタディモデル印象採得、石膏注入 相互実習
5	実習	15	スタディモデル印象採得、石膏注入 相互実習
6	共同動作（患者誘導～ライティング～ フォーハンドテクニック、口腔診査相互）	16	スタディモデル印象採得、石膏注入 相互実習
7	実習	17	スタディモデルの作成 講義と実習
8	共同動作、PMTC 相互実習	18	スタディモデル台付け 実習要領
9		19	スタディモデル台付け実習 実習
10	アルジネート印象採得 全顎 マネキン実習	20	スタディモデル台付け 実習

回数	講義内容	回数	講義内容
21	TEK 講義と実習	31	摂食嚥下（予備）
22	TEK 実習	32	摂食嚥下（予備）
23	摂食嚥下	33	
24	摂食嚥下	34	
25	摂食嚥下	35	
26	摂食嚥下	36	
27	摂食嚥下	37	
28	摂食嚥下	38	
29	摂食嚥下	39	
30	摂食嚥下	40	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつき-1点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本歯科診療補助

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科予防処置Ⅲ－1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	千葉暁子 外部講師(歯科医師、歯科衛生士)	実務経験	歯科医師に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。さらに、その予防や具体的な治療方法に対する考察を行い、臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標				
	①歯周病の概要を理解し、その治療方法や全身疾患との関わりについて説明できる。 ②歯周病を臨床で予防することの重要性を理解し、実践できる。 ③歯周病の治療におけるメンテナンス、SPTの重要性を理解し、説明できる。 ④症例に対して、問題点を抽出し、歯科衛生過程に基づき、指導計画を立て、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯周病概要・治療法	11	症例検討
2	歯周病概要・治療法	12	症例検討
3	歯周病と全身疾患	13	症例発表
4	歯周病と全身疾患	14	症例発表
5	歯周病の予防	15	科目試験
6	歯周病の予防	16	
7	メンテナンスと歯周病	17	
8	メンテナンスと歯周病	18	
9	症例検討	19	
10	症例検討	20	

講義方法

①講義：教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また講義内容の復習も兼ねてミニテストを行う。②演習：グループワークを基本として、発表を行う。

講義で使用する機器・教材

PC, プロジェクター

履修上の注意事項

グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と率先した行動を行う。ミニテスト等復習をしながら、国家試験に備えた基本事項を確認する。

成績評価方法

科目試験、出席状業、学習態度、ミニテスト成績

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療

参考書**予習復習のアドバイス**

①グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と率先した行動を行う。②ミニテストに対する予習を怠らないで行い、基本知識の確認と取得ができるよう、努力する。③自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅲ－1	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	市川明子 千葉暁子	実務経験	市川：歯科医院に歯科衛生士として6年勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	社会制度・医療制度を理解し、地域歯科保健活動に関わる歯科衛生士に必要な知識・技術を習得する。				
	到達目標				
	地域歯科保健活動に関わる歯科衛生士の役を説明できる。個人・集団における実践例を説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	禁煙支援 オンライン授業	11	老人保健 産業保健
2	学校保健 オンライン授業	12	医療面接
3	地域保健 オンライン授業	13	医療面接
4	食生活指導 分析とか依然プラン 課題	14	歯科保健指導Ⅲ－1まとめ
5	口腔清掃法 課題	15	歯科保健指導Ⅲ－1まとめ
6	業務記録① オンライン授業	16	
7	ライフステージに合わせた歯科衛生士の介入 ①現状	17	
8	②老年期の歯科衛生士の介入 口腔ケアの必要性	18	
9	業務記録② ストレスマネジメント・アンカーマネジメント	19	
10	母子保健 成人保健	20	

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項**成績評価方法**

歯科保健指導Ⅲ-2・ノート提出・出席時間・定期試験・受講態度を総合して評価します。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、 保健生態学

参考書**予習復習のアドバイス**

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科保健指導Ⅲ－2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	市川明子 千葉暁子 外部講師（歯科衛生士）	実務経験	市川：歯科医院に歯科衛生士として6年勤務 千葉：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標				
	対象者の年齢や環境における個人・集団に対応した口腔衛生指導・管理方法を専門的な立場から指導できるように学習する。				
	到達目標				
	対象者を把握し、個々の口腔内に適した口腔清掃技術を習得する。 地域保健活動について理解し、実践できる能力を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	旭ヶ丘幼稚園実習準備	11	1・3年生合同実習
2	旭ヶ丘幼稚園実習準備	12	1・3年生合同実習
3	旭ヶ丘幼稚園実習準備	13	1・3年生合同実習
4	旭ヶ丘幼稚園実習準備	14	1・3年生合同実習
5	③ 口腔ケアを行う際の注意すべきところ	15	1・3年生合同実習
6	④口腔ケアの方法	16	歯科保健指導Ⅲ まとめ
7	⑤摂食嚥下リハビリテーション	17	
8	マカナ臨地実習準備	18	
9	マカナ臨地実習準備	19	
10	マカナ臨地実習準備	20	

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

学校で準備します。

履修上の注意事項

欠席しない様に体調管理をすること。

成績評価方法

歯科保健指導Ⅲ-1・ノート提出・出席時間・定期試験・受講態度を総合して評価します。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、 保健生態学

参考書**予習復習のアドバイス**

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－1	講義曜日		講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	加藤美智子	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助の校医の基本から応用へと臨床現場で十分対応できるように技術を習得すること。				
	到達目標				
	歯科材料、機器の選択や正しい取り扱いができる。共同作業のきほんから応用へと対応ができる。各治療内容における知識技術を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	審美歯科総論	11	オフィスホワイトニングB シェードテイク 相互実習
2	審美歯科治療の歯科衛生士の役割	12	オフィスホワイトニングB シェードテイク 相互実習
3	デュアルホワイトニング カウンセリング	13	ホワイトニング評価
4	デュアルホワイトニング カウンセリング 実習	14	診療補助まとめ
5	ホームホワイトニング マウストレー用模型作成 実習	15	診療補助まとめ
6	ホームホワイトニング マウストレー用模型作成 実習	16	
7	ホワイトニングセミナー 松風	17	
8	ホワイトニングセミナー 松風	18	
9	オフィスホワイトニングA シェードテイク 相互実習	19	
10	オフィスホワイトニングA シェードテイク 相互実習	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。 掲示板を注意してください。

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつき-1点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材利・歯科機器

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	時間割参照		
科目名	歯科診療補助Ⅲ-2	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	加藤美智子、外部講師（歯科衛生士）	実務経験	歯科医院に歯科衛生士として15年勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助行為の基本から応用へと臨床現場で十分対応できるように技術を習得すること。				
	到達目標				
	歯科材料、機器の選択や正しい取り扱いができる。共同作業の基本から応用へと対応できる。各治療内容における知識技術を修得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	印象採得 寒天、アルジネート ポスト模型 窩洞模型	11	PMMA接着材の取り扱い 講義と実習
2	実習用石膏模型作成	12	PMMA接着材の取り扱い 暫間固定 実習
3	印象採得 シリコン印象材 ポスト模型、コア	13	症例別器具、材料の取り扱い 歯周外科 講義と実習
4	実習用石膏注入	14	症例別器具、材料の取り扱い 講義と実習 コーパック
5	CR充填、研磨方法 講義と実習	15	症例別器具、材料の取り扱い 講義と実習 義歯
6	CR充填、研磨方法 実習	16	症例別器具、材料の取り扱い 講義と実習 義歯
7	TEK 大白歯クラウン	17	
8	TEK	18	
9	TEK ポストクラウン	19	
10	TEK	20	

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示板を注意して下さい。

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目につき減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること